令和4年度北海道特用林産振興懇談会議事録

【1】　日　時　　令和4年4月25日（月）

【2】　場　所　　水産林務部会議室

【3】　参加者　　別紙のとおり（構成員5名）

【4】　意見・質問交換

座長に北海道大学大学院農学研究院玉井教授を指名し、以降、座長の進行により質問・意見交換(下記、質問・意見発言者の敬称略、出席者名簿区分で表記)

1　令和2年の北海道の主な特用林産物の生産動向について

〇資料1により、令和2年の生産動向について事務局から説明

〇構成員の主な意見・質問

①乾燥きくらげの生産量について

・研究機関　:R2年の乾燥きくらげの生産量が知りたい。
生産額もマイナス20億と落ちているのはなぜか。

・事務局　　:R2の乾燥きくらげの生産量は約1トン。

・研究機関　:グラフではきくらげ類の生産量が伸びているが、乾燥きくらげもR1年より増加しているということか？

・事務局　　:乾燥きくらげはR1からR2でマイナス14トンだが、生きくらげはプラスで7トン増加している。
乾燥きくらげでマイナス14トン減少となり、単価も高いため、生産額も減少した。

・学識経験者:きくらげを専門でやっている生産者はいるのか？

・生産者団体:基本はしいたけで、暑く、しいたけが発生しづらい夏だけ、きくらげを生産する事業者が増えている。

②木炭の生産量について

・学識経験者:道産木炭の生産量が減少し続けているのは、単に生産者が減少しているからか。

・事務局　　:それもあるが、黒炭の販売量が減少している影響もある。

・学識経験者:コロナの影響で飲食店が休業したことにより、黒炭の生産量も落ちたとすると、そもそも道産の木炭を利用していた道内飲食店が多かったということか？
実際に利用していたところを調べれば、これからの需要開拓にも役立つと思う。

２　令和2年の北海道内のきのこ類・山菜等の流通実態について

〇資料2により、令和2年の流通実態調査の結果について事務局から説明

〇構成員の主な意見・質問

③えのきたけの販売量に関して

・事務局　　:えのきたけが他のきのこに比べ、道産の販売シェア率が低いのは、道内には「えぞ雪の下」が流通していることが影響しているからか？

・研究機関　:それよりも、道内産の生産が少ない時期に、道外から安いえのきたけが入ってきている影響があるかもしれない。

・消費者団体 :また、えのきたけは傷みが早いので、消費者に敬遠されているところもあると思う。冷凍など保存方法などを周知することにより、きのこ離れを防ぐ必要があると思う。生協やホクレンなどが発行しているフリーペーパーなどの特集記事を参考にするとよいと思う。

・研究機関　:確かに調理の仕方はともかく、保存の方法は知らない人が多いかもしれない。

・消費者団体 :食品ロスの観点からも、どこかで周知していく必要があると思う。

・生産者団体 :併せて、道産きのこが安心・安全ということの周知も大事である。まずは、どんぐりマークが国産の証明であるということを消費者に認知してもらうことと、マークの普及が必要と思う。

④乾燥きくらげの生産額に関して

・研究機関　:大幅に減少した事由はなにか。

・事務局　　:市場での入荷がなかったため、乾燥きくらげの生産額がマイナス20億になった。

・研究機関　:乾きくらげに関しては、市場より道の駅や直売などのイメージがあるが。

・生産者団体:昔はみんな市場に出荷していたが、今は直売や道の駅への出荷が増えてきた。

※懇談会後、調べたところ、R2乾燥きくらげの生産事業者は4社でした。
その4社生産量合計の内、

(1)75%が、出荷業者・仲買人へ出荷されました。こちらの生産額は推定で約1億2千万円。

(2)小売店への出荷が11%、道の駅等直売所への出荷も11%で、推定の生産額は各約2千万円。

(3)R1からR2の乾きくらげの生産額の大幅な減少の原因は、乾きくらげの道内生産量がトップだった生産事業者がR2の3月に倒産したことが主な原因と思われる。

３　林産試験場の研究動向について

〇資料3により、林産試験場が令和3年度取り組んだ主な研究課題とその成果などについて林産試験場から説明。

〇構成員の主な意見・質問

⑤河畔林ヤナギの菌床栽培への利用拡大に向けた課題解決に関して

・生産者団体　：道内のしいたけ原木及びオガ粉の供給が減少し続けている中、ヤナギが利用出来るようになれば助かるので是非すすめてほしい。

・学識経験者　：ヤナギを、オガ粉生産業者に無償で提供することは可能か。

・研究機関　　：どのようなシステムになるかは不明だが、河川管理者の開発局が継続して伐採しているので、継続して取引する事業者（オガ粉製造・販売）がいれば安く入手できるようになると思う。
オガ粉製造事業者だけではなく、きのこ生産者とも連携・意見交換していきながら、システム構築できればいいと思う。

・生産者団体　：道からも働きかけて1社でもモデル事業化してほしい。

・学識経験者　：行政としてはどのような動きができるか。

・事務局　　：道のバイオマスの取組で道建設管理部と森林組合が連携して、河畔林を無償で伐採してよい協定を結んでいて、伐採の費用は森林組合が持っている。
オガ粉製造業者の実際の製造コスト等含め、どれくらいでペイできるかの検証をして、上手くいきそうならば、事業化できると思う。

・学識経験者　：バイオマスの方との関係など整理して、係わる各生産者の収入が見込めれば事業化できると思う。

４　R3北海道特用林産振興方針に基づく施策の取組について

〇資料により、北海道が令和３年度取り組んだ主な事業とその成果などについて事務局から説明。

〇構成員の主な意見・質問

⑥しいたけ原木の不足に関して

・学識経験者　：原木の入手の良し悪しに波があるようだが、原木不足の根本的な原因はなにか？
・素材業者等がしいたけ原木を生産できないのか
・そもそも山に原木がないのか
現在、原木が入手出来ない状況ならば、それはこの先、改善されるのか？

・事務局　：正式な調査結果ではなく推測の範囲だが、考えられる原木不足の原因は
①　昨年のウッドショックに伴い、木材が高値で取引される一般材が優先して生産された可能性
②国の地球温暖化対策事業等で、人手が間伐の方に回らなかった可能性

・学識経験者　：素材生産業者等が、しいたけ原木の生産にまで手が回らないということか。

・事務局　：５～６年前に国の事業を実施した地域では間伐材からホダ木がかなり生産された記憶があるが、直近は、間伐材の量が纏まってでなかった可能性

・学識経験者　：体制強化が必要ということか。

・事務局　：素材生産業者だけに任せるのではなく、しいたけ生産者と共に協力して原木を供給していけるかの協力体制が必要と思う。
今までとおりのやり方では難しいだろう、と思う。

・学識経験者　：先にでた、ヤナギの研究もそうだが、他の部署を含めて新しいやり方をシュミレーションしながらシステム化していくことが必要と思う。

・事務局　：まず第一段階として情報収集し、どのような形がよいのか検討していく中で、構成員の方々にも意見を伺っていきたいと思う。

５　R4北海道特用林産振興方針に基づく施策の取組について（案）

〇資料により、北海道が今年度R4に取り組む予定の事業について事務局から説明。

〇構成員の主な意見・質問

⑦施策の取組に関して

・消費者団体　：きのこをPRしていくのならば、ヘルシーdoなどの成分･効能など消費者が「きのこを食する必要性」を考えるためのデータを上げていくことが必要だと思う。

６　その他

〇構成員の主な意見・質問

⑧生産者団体からのお願い

・生産者　：これから、コロナ過でも出来うるPR活動を、北海道きのこ生産・消費振興会として検討していくので、道には資料の作成など協力してほしい。